

## 平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 茨木市  
 実践研究校名 茨木市立太田中学校

【公開授業】公開日：平成 25 年 11 月 11 日

対象学年： 中学校1年生

<p>(教材・教科書名) NEW CROWN 1 (单元名) Lesson 6</p>	<p>(本時の指導の目標) 第5時 担当：永井卓也</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本のもの(文化)についてマインドマップを使い情報を整理することができる。</li> <li>• 整理した情報(日本のもの)を英語で説明することができる。</li> </ul>
---	---

(本時の授業において工夫した点)

- 日常の授業と同じ雰囲気を取り組めるよう(見学者に日常の一コマを意識してもらうよう)に、特別な教材は使用せず、普段どおりのクラスルームイングリッシュの活用や英会話を行い、小中連携で培われた子どもたちの英語力を感じてもらえるよう授業を展開した。
- 情報を整理するためのツール(マインドマップ)を提示し、子どもの活動に生かした。
- できる限り子どもたちが既習内容を活用し、自分たちの考えを英語で表現できるようヒントの出し方に工夫した。

(授業を終えた教員の感想)

- 子どもたちが自信をもって英語を活用し、堂々とした態度で授業に参加していた。
- 多くの見学者の中で、即興性のある授業ができたことがうれしかった。
- 普段どおり緩急のある授業展開できれば、子どもたちの能力をもっと引き出すことができたように感じる。

<p>(教材・教科書名) NEW CROWN 1 (单元名) Lesson6</p>	<p>(本時の指導の目標) 第6時 担当：谷 知子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 英語で日本の文化についてグループのメンバーで協力して発表をする。</li> <li>• スピーチを聞いて内容を理解する。</li> </ul>
--	--

(本時の授業において工夫した点)

- 一人ひとりの生徒が少しでも多く英語を話せるように授業構成を工夫した。
- プレゼンテーションの構成を3段階に分け、オリジナルの文を考えさせ、すべての子どもたちが意欲をもって授業に参加することができた。
- プロジェクターを使い、視覚からも入ることで、英作文や発表へのモチベーションを高めることができた。

(授業後を終えた教員の感想)

- 生徒らの力で文の構成を考えることができたことについて、こちらの想定以上の力を発揮してくれた。
- 自分の班や他の班の発表を終えての振り返りにもう少し時間をとりたかった。

## 【研究協議会】

(テーマ) LINK! 自分を表現し、つながり合う太田っ子の育成	(指導・助言者) 関西大学大学院外国語教育学研究科 竹内 理 教授
-------------------------------------	---

### (研究協議会で出された意見)

- 班活動での姿勢やジェスチャーを交えながらの発表はすばらしい。
- 学習の積み重ねがよく見え子どもたちが自信を持って発表している様子が印象的。
- バックワードデザインの有効性がよく伝わった授業とプレゼンテーションだった。
- いろんな物が共有されていた（コンピューター・プロジェクターの使用）。
- それらが必要性のある場面で使われていた。
- NETの契約形態が太田中学校区のようになることを心から望む。
- 茨木市における専門支援員などのバックアップ体制がうらやましい。

### (まとめ)

1. 小中連携が深まり、共有できる部分がすごく増えた。
2. バックワードデザインによる授業の組み立ての重要性が理解できた。
3. これからもできるだけ発表の場を設けて堂々と発表できるようにしたい。
4. 1時間の中でもう少し振り返りの時間をとれるようにすること、「書く」時間の確保をどうしていくかが課題。